

殿様日記 vol.16 豊川市桜ヶ丘ミュージアム特別展「とよかわ^{モン ハン}紋・藩ワールド」

令和4年 霜降月（11月）

牧野家発祥の地、愛知県豊川市の桜ヶ丘ミュージアムで令和4年10月8日から11月27日まで開催されている特別展「元祖豊川のブランドマーク！？とよかわ紋・藩ワールド」の開会式に出席するため3年ぶりに県外に出た。

10月7日長岡駅を発し東京駅で乗り換え牛久保駅に到着。そこでは牧野成定公奉賛会の役員の皆様が出迎えてくれた。この日は全国的に天候がすぐれず、冷たい雨が降り続く日であった。いつもならば豊川へと向かう車窓から眺められる富士山は今回は雲の中であった。

久しぶりの豊川訪問で、まず牧野家の菩提寺光輝院を訪れ、お元気な御住職ご夫妻とお目に掛かり、ご挨拶後、本堂でご住職の読経のもとお参りすることが出来た。

もう一つ、特別展に出席する前にお目に掛かりたい方があった。それは令和3年11月15日発行の「渦巻いて、三河牧野一族の波瀾」上・下巻の著者岩瀬崇典氏である。著者の勤務先の社長と奉賛会の役員高橋氏が旧知の中で紹介して頂いた次第である。著者は現在38歳で株式会社白惣と言う世界的に有名な野球用バットを製造している会社の製造部長である。著者は高校生の時にこの小説の原案をまとめており、最近手を入れて完成させたとの事であった。戦国時代に牧野一族がこの豊川地域を中心に活躍したことを詳細に書いた歴史小説で、牧野家のことを細かく調べ良くまとめられている。牧野成定公以前の牧野家の歴史が良く分かる内容となっている。



著者岩瀬氏の案内でバット工場を見学

翌8日、特別展は午前10時に桜ヶ丘ミュージアム2階の展示ホールで開始された。開会式は竹元豊川市長、私、大岡様の挨拶後、テープカットが行なわれた。



挨拶、テープカット



1 天目台、蓋（長岡藩主使用の物）

今回の特別展は豊川市域を領した12藩20家、豊川市域出身の大名2氏8藩のうちから7家を選び、それらの家の紋所に焦点を当てた資料（調度品など）が展示されている。選ばれた7家は、大岡家（西大平藩）、田沼家（相良藩）、大給松平家（西尾藩）、大河内松平家（吉田藩）、水野家（岡崎藩）、牧野家（長岡藩はじめ5藩）、本多家（膳所藩はじめ3藩）の7家である。

牧野家は三つ柏と五間梯子をあしらった以下の品々8点を長岡藩主牧野家史料館から提供し展示した。



2 柄鏡

- 1 天目台、蓋
(長岡藩主使用の物)
- 2 柄鏡
- 3 長盆
(長岡城内で使用のもの)
- 4 襖の引手
(長岡城内で使用のもの)
- 5 釘隠し
(長岡城内で使用のもの)
- 6 黒椀
(三つ柏と五間梯子紋)
- 7 赤木杯
- 8 小型の丸盆

豊川市域は江戸時代、多くの小さな村があり、その数は80から90村を数え、それらの村々を所領とした大名は20家にもものぼったそうである。開会式には多くの市民の方々がお出でになり、式典後、榎原学芸員の丁寧な説明案内でゆっくり展示品を見ることが出来た。来場者には私に熱心に話しかけてくれる方もあり、豊川一帯を治めた約200年の歴史の重みを改めて感じた次第である。



3 長盆（長岡城内で使用のもの）



4 襖の引手（長岡城内で使用のもの）



5 釘隠し（長岡城内で使用のもの）



6 黒椀（三つ柏と五間梯子紋）



7 赤木盃



8 小型の丸盆